

牛群検定通信 No35

◇乳脂率の見方◇

春です。牛たちにとっても過ごしやすい天候となり、これからが最も乳量が多い季節です。しかし、乳脂率、蛋白質率といった乳成分は残念ながら低下してしまう季節でもあります。乳量が増えている分、仕方がないと思われがちですが、一般的には乳成分は飼料給与の状況を次のようにあらわします

検定成績表の乳脂率　：粗飼料の給与状況

検定成績表の蛋白質率：濃厚飼料の給与状況

検定成績表のMUN　　：蛋白飼料の給与状況

今回は、自給飼料として位置づけも高く、乳牛にとってもっとも大切な飼料である粗飼料を中心に、乳脂率から考えてみたいと思います。

(1) 全頭的に乳期全般で乳脂率が低い(3.5%以下)場合は、次を確認してみてください

- ①粗飼料の絶対量が不足
- ②濃厚飼料の多給
- ③粗飼料のカビや刈り遅れ、2次発酵などの低品質粗飼料　　など

(2) 何頭かが極端に乳脂率が低い(3.0%以下)場合は、次を確認してみてください。

- ①飼料給与が均等になっていない、または盗食されている
- ②TMRの選び喰い
- ③ルーメンアシドーシスや蹄病等の周産期病　　など

(3) 全頭的に乳量が少なく乳脂率が高い

乳脂率が高いこと自体は乳質として歓迎すべきことですが、乳量が伴っていない場合は問題が内包されていることがあります。

- ①サイレージの酪酸発酵
- ②ストレス等による喰込量の低下
- ③ウォーターカップの故障や凍結などの飲水のトラブル　　など

(4) 泌乳初期の乳脂率が高い

泌乳初期に乳脂率が5%を越えるような場合は、飼料のエネルギー不足による体脂肪の動員（削瘦）を意味しています。これは、肝臓に脂肪蓄積を伴い脂肪肝となることが知られています。

①クローズアップ期（乾乳期における分娩前2～3週間）における濃厚飼料馴致が不十分の場合

②乾乳期のボディーコンディションが過肥の場合 など

(5) 泌乳ピーク期の乳脂率が低い

①十分な粗飼料が与えられていない場合

②飼料の掃き寄せ回数の不足 など

(6) 泌乳末期の乳脂率が高い

泌乳持続性が十分でない場合、乳量の低下とともに乳脂率が高くなる場合があります。過肥を伴うこともよく知られています。